

※協賛石材店募集「骨壺型樹木葬・合同説明会」も開催決定！（口絵6〜7頁のカラー広告もご覧ください）

人気の樹木葬市場に異業種が続々参入 激戦地でも「売れる」「選ばれる」樹木葬とは

千代石(株) (横浜市保土ヶ谷区)



横浜慶珊寺樹木葬墓地（横浜市金沢区）。第1期分は、骨壺のまま納骨できる樹木葬墓地として早々と完売し（上）、現在は2期目（下）の販売が行なわれている

「いま人気の樹木葬墓地は、首都圏や都市部だけでなく、地方都市にも広がりを見せています。それに伴い、いまや（葬儀社やNPO法人など）異業種の参入も顕著になってきました。それが原因かはわかりませんが、想定外のトラブルに見舞われるケースもあるようです。そうしたなか、いかに他社と差別化を図り、お寺様やお客様へより良いもの、選ばれるものを提供できるか——それが私ども千代石の真骨頂ともいえる『供養重視の樹木葬』なのです」

千代石(株)の河東田清八郎社長はそう話す。

同社は「供養重視の樹木葬」を理念に掲げて二〇二〇（令和二）年に創業。熟考の末、神奈川県指定の土木事務所と開発した「骨壺納骨型樹木葬墓地」の特許申請（特願2022-



千代石の骨壺納骨型樹木葬を採用した真光寺（千葉県野田市）の古谷住職

21361）に至り、その企画・提案から施工、販売までの一連の流れをビジネスモデルとして構築し、石材店へのサポート体制を確立。それが現代のニーズにマッチした新しい樹木葬墓地として各地に次々とオープンしている。なぜ同社の樹木葬墓地が選ばれ支持されるのか、同社が過去に手掛けた事例から探ってみよう。

野田樹木葬墓地「大地」（上）と、その施工のようす（左）。工事の特長としては、墓地内に溜まった雨水を浸透圧で墓地の外に排水する構造になっている



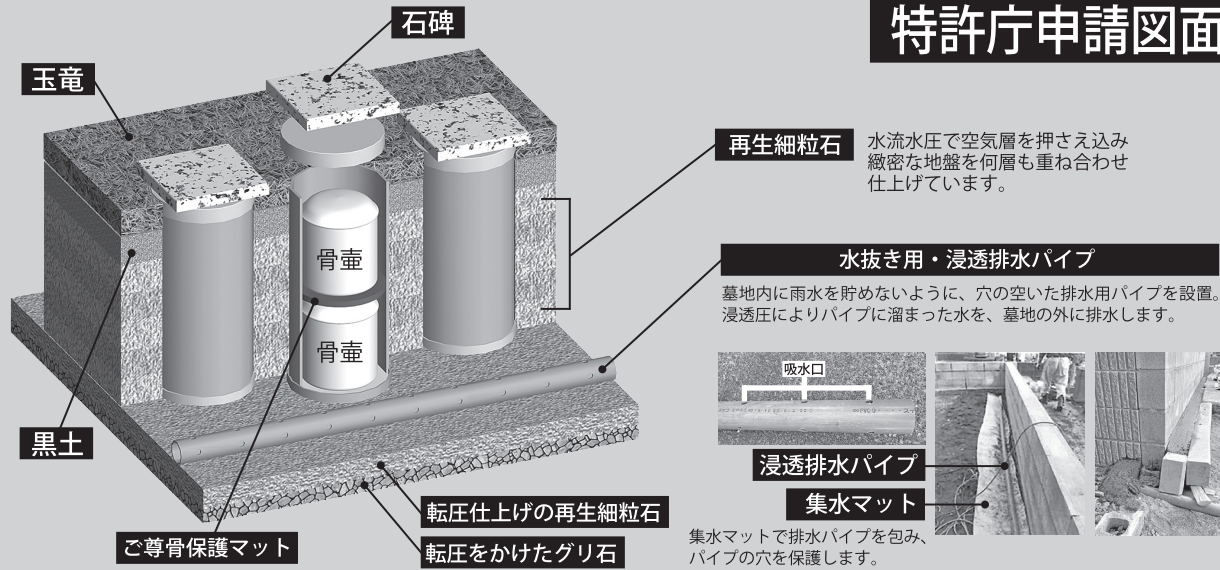
寺（真言宗豊山派、古谷光裕住職）に誕生した野田樹木葬墓地「大地」。同寺は室町時代の一四六八（応仁二）年、法印憲心による開山で、古谷住職で三十代目となる古刹であるが、ここでは本誌二〇二三年二月号で紹介した「骨壺納骨型樹木葬」（以下「骨壺型樹木葬」）が、同市内で初めて採用された。

一般的な樹木葬墓地の場合、納骨の際に、遺骨を骨壺から納骨ポットに移し替えたり、粉骨するケースなどもあるが、同社が「供養重視」の視点で考案した骨壺型樹木葬は「ご尊骨」の尊厳さを保ち、骨壺のまま納骨できるのが最大の特徴だ。「尊厳を持って納骨させていただく」という古谷住職の崇高な気持ち、骨壺型樹木葬を採用する最大の決め手になった。エリア単価は少し高めの設定であったが、オープン前から反響が大きく、順調に申し込みが続いている。

二つ目は、骨壺型樹木葬を初期から導入している、神奈川県横浜市金沢区にある慶珊寺（真言宗御室派、佐伯隆道住職）の横浜慶珊寺樹木葬墓地である。こちらでは販売計画を上回るスピードで申込みがあり、当初の予想より数段階早く第一期が完売。あわてて第二期を計画し販売を続けているが、その成約率のスピードに衰えは見られない。

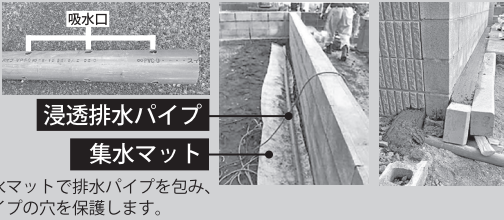
「横浜には既存の樹木葬墓地が数多くありますので、正直、計画通り進むか不安でしたが、お陰様で骨壺型樹木葬に対する評価は高く、またご住職様のお人柄もあり、よい意味で予想を

特許庁申請図面



再生細粒石 水流水圧で空気層を押し込み緻密な地盤を何層も重ね合わせ仕上げています。

水抜き用・浸透排水パイプ 墓地内に雨水を貯めないように、穴の空いた排水用パイプを設置。浸透圧によりパイプに溜まった水を、墓地の外に排水します。



集水マットで排水パイプを包み、パイプの穴を保護します。



静岡県熱海市に開設した「いずみの郷ゆがわら樹木葬墓地」(保善院)。緑豊かな周囲の景観とマッチし、360度どの方向からもお参りできるように設計されている。第1期220区画は完売、現在、第2期(220区画)を販売中



河東田社長と固い握手を交わす協賛石材店、湯河原石材の二見社長(左)

上回る結果となりました」と河東田社長。
現在、工事進行中で四月末にオープン予定の寺院が一件、提案・商談中の寺院も二件あり、いずれも今年度中の完成が見込まれている。
もう一つ、静岡県熱海市の「いずみの郷ゆがわら樹木葬墓地」は、地元の保善院(曹洞宗)が開設したもので、銘石「本小松」の墓石専門店、湯河原石材(株)(二見尚弘社長)が千代石相縁事業部の協賛石材店として企画・開発・販売等に協力している。
「二期目は他社に依頼したが、二期目は河東田社長の心意気に打たれ、千代石さんに設計をお願いしました。360度どの方向からもお参

りできるアイデアは、お寺様をはじめ、お客様にとでも喜ばれています。『骨壺型樹木葬』は試行錯誤を何度も繰り返し最後に完成したと聞いており、必ずやご満足いただけるものになると確信しております」と二見社長は話す。
また河東田社長が冒頭で述べた想定外のトラブルとは、樹木葬墓地の施工に関すること。
「二例として、既存の樹木葬墓地の中には、近年多発する集中豪雨や凍結等が原因で納骨ポットが浮き上がってしまうトラブルなどが報告されています。樹木葬墓地の工事は一般墓と違ってさまざまな専門分野のノウハウが必要となります。それを一社に丸投げするところが多

く、専門外の完成度は必然的に低くならざるを得ません。その点、弊社は、それぞれの専門家と共同開発した施工ノウハウがあり、そのすべてを把握する社員(級建築士)がおりますので、どなたでも安心して樹木葬を手掛けることができます」と河東田社長は太鼓判を押す。
他社が手掛けた別の現場では、やはり専門外の業者による不慣れた施工が原因で、納骨ポットの並びが横一列に揃わず、石碑がバラバラに配置されるケースなども見られるという。
「これは私見ですが、バブル期に霊園開発が盛んに行なわれ、墓地の主流は寺院から霊園へと大きくシフトしました。この寺院墓地離れの動きと連動して異業種の参入も増えました。当時は墓地開発をめぐるトラブルも多く、石材店として危機感を覚えた方も多かったと思います。それと同じことが現在、樹木葬の市場でも起きています。寺院墓地は我々石材店の専門領域です。弊社が相縁事業部を設立した理由も、同じ思いの石材店様と協力してお寺を守り、そのプライドを守り抜きたいという思いがあったからなのです」と河東田社長は説明する。

相縁事業部が協賛石材店を募集中! 5月17日(水)、都内で合同説明会

樹木葬墓地に求められる理念や耐久性、施工品質に絶対の自信を見せる同社相縁事業部では、骨壺型樹木葬の販促・普及に協力してくれる協賛石材店を募集しており、このほどその合同説明会が開催されることになった。

開催概要は以下のとおり。

◎骨壺型樹木葬・合同説明会(事前予約制)

【日時】五月十七日(水)十時三十分より

【会場】MEETING SPACE AP 品川

東京都港区港南1-6-3

品川東急ビル8F

※品川駅・港南口より徒歩六分

「檀家離れや墓じまい等で収益が悪化しているお寺様が増えており、『お寺を継がない、継がせられない』といった話も聞かえてきます。しかし視点を変えると、承継者不在のため、供養したくてもお墓を建てられない方もたくさんいらっしゃいます。我々の現場では『お寺の樹

木葬にしておよかった』『安心します』という声をよく耳にします。やはり大多数の日本人は、お寺での供養を望んでいるのです。お寺様とお客様をつないで供養の大切さを継承する手段の一つとして、石材店様と一緒に『骨壺納骨型樹木葬墓地』を多くのお寺様へご提案したいと考えております」と河東田社長は述べる。
関東周辺の石材店で、同社の「売れる」「選ばれる」樹木葬に興味のある方、あるいは地元で樹木葬を検討中のお寺があるが、具体的な提案やアプローチの仕方がわからない方など、本合同説明会に一度参加してみたいかがだろうか。資料請求及び詳細等は左記までお問い合わせのこと(巻頭の口絵6〜7頁カラー広告も参照のこと)。

◎千代石(株)・相縁事業部

神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩間町1-11-

14-2002

TEL045-459-9813

<https://www.chiyoseki.jp/>

※口絵6〜7頁のカラー広告もご覧ください